

アヤメ

学名：*Iris sanguinea* Hornem. 科名：アヤメ科



日本各地の山野に咲くアヤメは、湿気を嫌い乾燥した土地に好んで育つ多年草です。上に直立した3枚の紫色の花弁と下に垂れ下がった3枚の紫色の花弁が特徴的です。

同じアヤメ科であるカキツバタとノハナシヨウブと比べると色と見た目がそっくりなのはご存じでしょうか？見分け方は、カキツバタには花弁に白い線、ノハナシヨウブには黄色い線があります。それに対し、花弁に黄色い網目のような模様（文目模様）があるのがアヤメです。この文目模様をもつことからアヤメと呼ばれるようになったそうです。また、カキツバタとノハナシヨウブは水辺などの湿地に好んで咲くという違いがあります。

アヤメの根茎、根を生そのままあるいは日干ししたものを豆豉草（ズシソウ）と言い抗菌作用があるとされています。さらに、消炎薬として胃痛や腹痛にも用いられると言われています。ただし、吐き気や嘔吐を起こす可能性があるため、過剰に摂取するのはおすすしません。見た目がきれいで容易に育つため古くから観賞用として栽培されてきたそうなので、皆さんも観賞用としてお楽しみください。

生薬名 豆豉草（ズシソウ）

薬用部位 根茎、根

薬効 抗菌、消炎作用

用途 皮膚病、胃痛、腹痛に用いる。

レンゲツツジ

学名： *Rhododendron japonicum* Suringer 科名： ツツジ科



レンゲツツジは花が数輪集まって輪状に並んで咲きます。この姿を仏の蓮華にたとえ、この名前が付けられました。日本特産であり古くから観賞用として栽培されてきたため、橙黄、黄、紅花と品種は多く存在します。樹高は1〜2mで、直径5〜6cmの花冠を開きます。花期は5〜6月で新葉とともに開花します。

レンゲツツジは葉、花、根に有毒成分を含む植物です。家畜が食べないため放牧地や富士、浅間、八ヶ岳山麓などでは大群落となっています。

民間療法として痛風、腰痛、リウマチに用いられてきました。葉、花、根を酒に浸して飲用します。また、外用として酒エキスや粉末をリウマチや腰痛の患部に塗布して用いられてきました。さらに、葉を煎じた液は殺虫剤として利用されてきました。しかし、有毒植物であるため、痙攣を起こして呼吸中枢麻痺の危険があり、服用量には注意が必要です。また、食用として用いることは禁止されています。

生薬名 鬧羊花（ドウヨウカ）、羊躑躅根（ヨウテキキョクコン）、六軸子（ロクジクシ）

薬用部位 葉、花、根皮

薬効 消炎、鎮痛作用

用途 消炎、鎮痛薬として痛風、神経痛、リウマチに用いられてきた。



シクヤク

学名： *Paeonia lactiflora* Pallas 科名： ボタン科



牡丹の花が終わりかける5月から、牡丹に似た美しい花を咲かせるこの植物はシクヤクと言います。シクヤクは中国や日本の各地に分布する高さ80〜90cmの多年草です。ボタンと同じボタン科であり、花がよく似ていますが、ボタンは落葉性低木に分類される「木」であるのに対し、シクヤクは多年草に分類される「草」であるという大きな違いがあります。

現在では園芸用に改良され、ピンクや紅色の花を見ることができですが、もとは白いシクヤクが多く、薬として使用する場合は白い花である方が良くとされてきました。

シクヤクの根は婦人科三大漢方薬と言われている当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸のすべてに配合される重要な生薬です。刺すような痛み、月経不順、冷え症、子宮出血の改善や神経の安定に使用されています。栽培する際には根を太らせるために蕾をすべて摘み取ってしまうため、花を見ることができません。

摘み取るのがもったいないほど美しいシクヤクの花を一度見に行ってみてはいかがでしょうか。

生薬名	芍薬（シクヤク）	局方生薬
薬用部位	根	
薬効	鎮痛、鎮痙、抗炎症、血圧降下、抗ストレス潰瘍作用	
用途	鎮痛鎮痙薬、婦人薬、冷え性用薬、かぜ薬として漢方処方に配合される。当帰芍薬散（トウキシクヤクサン）、加味逍遙散（カミショウヨウサン）、桂枝茯苓丸（ケイシブクリョウガン）、芍薬甘草湯（シクヤクカンゾウトウ）など	



エニシダ

学名： *Cytisus scoparius* Link 科名： マメ科



黄色い蝶が群れで枝に止まっているように花をつけるこの植物はエニシダといいます。エニシダは高さ1〜3mほどで、大きくなりすぎず乾燥にも強いいため、公園の生け垣や庭木として利用される落葉低木です。枝は1年を通して緑色であるため、冬に葉が落ちた後でも、まるで葉があるかのように青々としており、一年中楽しむことができます。

エニシダは南ヨーロッパ原産です。日本には30年ほど前にオランダ船によって長崎に持ち込まれました。エニシダという名前は、かつてエニシダが属していたゲニスタ属がオランダなまりではヘニスタと発音され、さらになまってエニシダとなったことが由来で、漢字では花の鮮やかな黄色が金色に見えることから金雀枝と書きます。

エニシダの枝は、子宮収縮、利尿、血圧上昇作用のあるアルカロイド成分を含み、ヨーロッパでは枝を煎じて強心利尿薬として用いられました。しかし、毒性が強く、扱いにくいため専門医が利用します。身近にある薬用植物ですが、誤って口にしてしまうと、薬ではなく、毒になってしまいます。

アルカロイドとは？

窒素原子を含み、天然に存在する有機化合物の総称です。アルカロイドには医薬品として重要な化合物が数多く分類されています。

生薬名	エニシダ枝
薬用部位	枝
薬効	子宮収縮、利尿、瀉下、止血、血圧上昇作用
用途	強心利尿薬、子宮収縮不全などにそれぞれの専門医が利用する。

